



関根内科外科医院 院長の関根武彦さんと事務長で臨床検査技師の関根真衣さん。



関根内科外科医院

診療科： 一般外科・内科・消化器科・麻酔科・整形外科 ほか

往診範囲： 埼玉県児玉郡神川町を中心に半径16km（群馬県の一部を含む）



患者から預かる紹介状や検査結果などをデータ化して電子カルテに連携

地域医療を担う医院の事務を効率化、スタッフ増員なしで円滑な運営を実現

埼玉県児玉郡神川町の「関根内科外科医院」は、地域住民を対象に一般外科・内科をはじめとする総合的な医療サービスを提供する個人病院です。高齢者施設などへの往診ほか、院長の関根武彦さんを筆頭に全スタッフが日々勤務をこなす中、同医院ではfiシリーズの導入によって、紹介状や検査結果などの書類をスキャンして電子カルテに紐付ける作業をスピードアップし、忙しい事務の業務を効率化しました。同医院を訪ね、事務長の関根真衣さんにお話をうかがいました。

- 課題** 紹介状や検査結果などの書類を画像データにして電子カルテに紐付ける際、フラットベッドスキャナーで1枚ずつスキャンして特定のPCで紐付けていたため手間と時間がかかり、診察に間に合わないこともあった。
- 解決法** PFUのスキャナー「fi-7300NX」を導入。書類をまとめて高速スキャンし、紐付け作業をどのPCからでも手の空いたときに行えるようにした。
- 効果** 以前は事務職員1名が1回につき100枚を一日がかりで処理していたのに対し、ほぼ1時間強で終わるようになって負担が大きく軽減。スタッフを増員することもなく日々の医療業務を遂行できている。

滞りがちなスキャン作業を効率化するためにfiシリーズのドキュメントスキャナーを導入

— 事務長で臨床検査技師の関根真衣さんにうかがいます。外来には毎日何人の患者さんが来院するのでしょうか。また往診はどのくらいの頻度で行っていますか。

関根さん 当院では午前中を外来に充てており、毎日40人前後がいらっしゃいます。お一人で来られない高齢の方には送迎車を出しています。往診は毎日、午後に行います。往診先は高齢者施設が10か所、個人宅が現時点で2軒あります。施設への往診では最多で100人近くを診るため、事務もかなりの作業量になります。

— このたびはfiシリーズを導入し、忙しい事務の一部を効率化されたとうかがいました。どのような業務に活用していますか。

関根さん 患者さんの重要情報として預かる、他院からの紹介状、検査結果、お薬手帳などをスキャンして画像データにし、電子カルテに紐付ける業務です。それらの書類は最初、原本のまま医師に回りますが、2回目以降の診察でも医師が簡単に見返せるよう、電子カルテに紐付けておく必要があります。

このスキャンを以前はフラットベッドスキャナーで行っていましたが、手間と時間がかかるためマンパワーが作業量に追いつかなくなりました。それがfiシリーズを導入して以来、スキャンと紐付け作業がだいぶ楽になって、スタッフを増やすことなく日々の業務をこなすことができます。



患者が持参する紹介状はスキャンして電子カルテに紐付ける書類の代表です。



導入した「fi-7300NX」で書類をスキャン。毎分60枚の高速で書類を読み取ることができます。

預かった書類はコピーを取って返却し、 あとから100枚ずつスキャンして電子カルテに紐付ける

— 患者から預かる書類のスキャンは、どのタイミングでどのように行っているのでしょうか。

関根さん 患者さんに当日中に返却できるよう、診察後、会計までの間にコピー機で紙のコピーを取っておき、それを週に1回、約100枚をまとめてスキャンしています。コピーには、別の方と取り違えることのないよう、患者さんごとに割り振られている6桁数字のIDを手で書き込んでおきます。

— 書類を直接スキャンする方法も考えられるのでしょうか。

関根さん 事務スペースが非常に狭く、スキャナーを置く場所がないという事情があるほか、多忙な中で勘違い



書類の一例。検査結果はレシート状、複写式の紙に手書きなど体裁がさまざまです。右端はお薬手帳です。



右2点が検査結果のコピー、左が紹介状。これらをあとからまとめてスキャンします。

による取り違えが発生するおそれを考慮すると、目で見えて触れることもできる紙の特性がこの場では有利に働きます。現時点ではコピーしてIDを手書きする方法が、最も効率的でミスが起こりにくいと判断しています。

一日がかりだった作業が「スキャン数分+紐付け1時間」へと大幅に短縮

— フラットベッドの頃はどのような問題がありましたか。

関根さん 紙を1枚ずつ置いてスキャンし、PCで結果を確認してからファイル名を編集して電子カルテに紐付けることを繰り返していたため、事務職員一人が一日がかりでようやく100枚が終わるという状況でした。また、優先すべきは日々の診療なのでスキャンが滞り、電子カルテへの紐付けが遅れることもありました。

そこで何かよい方法がないかとインターネットで調べてfiシリーズを知り、デモ機貸し出しサービスを利用して実際に試した上で導入を決めました。フラットベッドではあれほど苦労したのに、fiシリーズはものの数分で100枚をデータ化できます。

— 現在の業務フローを教えてください。

関根さん スキャナーにコピーを重ねてセットし、一気にスキャンしています。画像データは1枚ずつ独立したファイルにしており、コピーが100枚なら100のファイルが生成されます。それをサーバーの共有フォルダーに保存しています。

次に画像データと紙のコピーを照合してファイル名を「ID・氏名・書類名」に編集してから、電子カルテシステムの機能を使って該当する患者さんのカルテに画像を紐付けていきます。フラットベッドの頃はスキャナーにつながるPCが1台だけだったためスキャンしながら行っていましたが、今は複数のPCから共有フォルダーにアクセスできるので、スキャン後は事務職員の手が空いたときに紐付け作業を行えるようになりました。

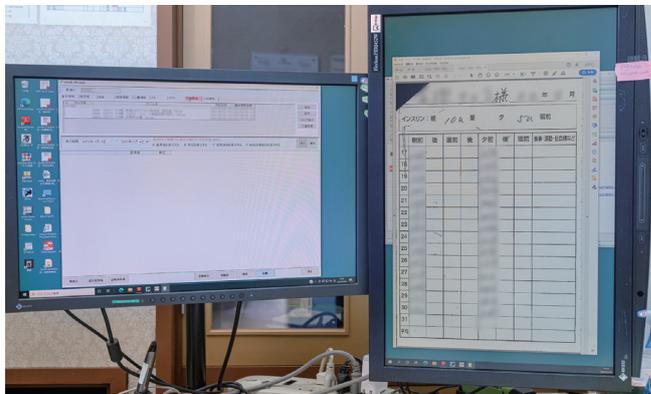
— 照合とファイル名の編集、電子カルテ画面での紐付け、それぞれ100件の処理にどのくらいの時間がかかりますか。

関根さん それだけに集中できれば1時間で終わります。作業が可能なPCが5台あり、都合のよいときに都合のよい場所で作業で

きることも効率アップにつながっています。まだ実際に試みてはいませんが、5人で手分けしながら同時に紐付け作業をし、ごく短時間で100枚を終わらせることも可能だと思います。



「fi-7300NX」でコピーをスキャンして共有フォルダーに画像を保存します。



電子カルテへの紐付けは電子カルテシステムの機能を使って行います。100件の紐付け作業が正味1時間で終わります。

